

労働者の教育問題

労働者の教育問題一般

労働者の地位の向上、自覺の促進にはどうしても労働の教育問題に觸れて來なければならぬ。労働者の教育は人格教育と技術教育との二つの方面があり、又其教育の方法としては(一)義務教育修了者に或る一定期間特別の教育を施す方法もあり、(二)義務教育終了後實際の實務に服して居る者に作業終了後特定時間丈教育を施す方法もあり、(三)同上の者の作業中の一定時間を裂いて一定の教育機關に通學せしむるが如き方法もある。以上は主として商工業の従業員に就ての話であるが此外農産等の労働者にあつては農閑期丈に或る種の教育を施すが如き方法もある。而して此等の労働者に教育の必要を感せしめ、教育を奨励するには何等かの優遇の道を講ずるのが最も有効であるが其方法には(一)通學中の時間に比例して出席者に通學時間中の賃銀も雇主が支給する方法あり、(二)通學者の學用品

授業料等を雇主が支給する方法あり、(三)一定の教育受了者に賃銀割増等の一定の優遇法を講じて雇主が其従業員に教育を奨励する方法もあり、(四)雇主側から何等の方法をも盡さぬが労働者が自發的に教育の必要を感じて、通學する様な場合もある。以上は義務教育修了の者に就ての事であるが、尙此外に小學校教育未修了の者は甚だ多い。工場法の不適用工場に於ては此等未修了の者が殊に多いのであるが、適用工場でも紡績の女工などには随分澤山ある。紡績工場などでは簡単な夜學を設けて十二時間の労働を終つた女工に小學校教育を形式的に授けてゐる、併し長時間の作業後であり、且つ翌日の作業にも關係する故多くは出席は女工の自由にしてゐる。次に不適用工場では十二歳未満の者を使用し得るからして多數の兒童を使用して居るが、これ等の兒童は大抵夜學の小學校に通學するのである。併し夜學の小學校の効果は紡績の夜學と殆ど甲乙がない。此様に労働者の教育問題は種々様々な方法

に分れるのであるが併て現今我國にどれ丈の教育機關が調ふて居るかと云ふに其數甚だ僅かであると云はねばならぬ。先づ工業労働者教育機關に就いて云ふならば東京の大都市を以てしても比較的完備した職工養成機關は僅かに府立職工學校あるのみである。日本の工業都市たる大阪に於てすら府立職工學校が二つと私立住友職工養成所あるのみである。其他にも勿論種々の學校らしい者があるにはあるが大抵普通教育の補習をなすに過ぎないものである。次に商業従業者の教育機關としては普通の商業學校の外店員小僧の爲めに商

業補習夜學校が各地の都會にあるが其教育の効果は頗る低級のものである。最後に農業従業者の爲にある農業補習學校、女子補習學校等は我國の各地到る所に設けられ、修學期も地方の状況に應じて便利なる時を選んであるものが多い様である。併し此等の補習學校に通學する者の數は甚だ僅かであつて生活に幾分餘裕のある家の子弟に限られて居る様である。以下簡單に労働教育の方法を表示し、各地に於ける諸種の例を擧げて我國労働者中殊に工業労働者の教育狀況一斑を示したいと思ふ。

労働者教育の狀況

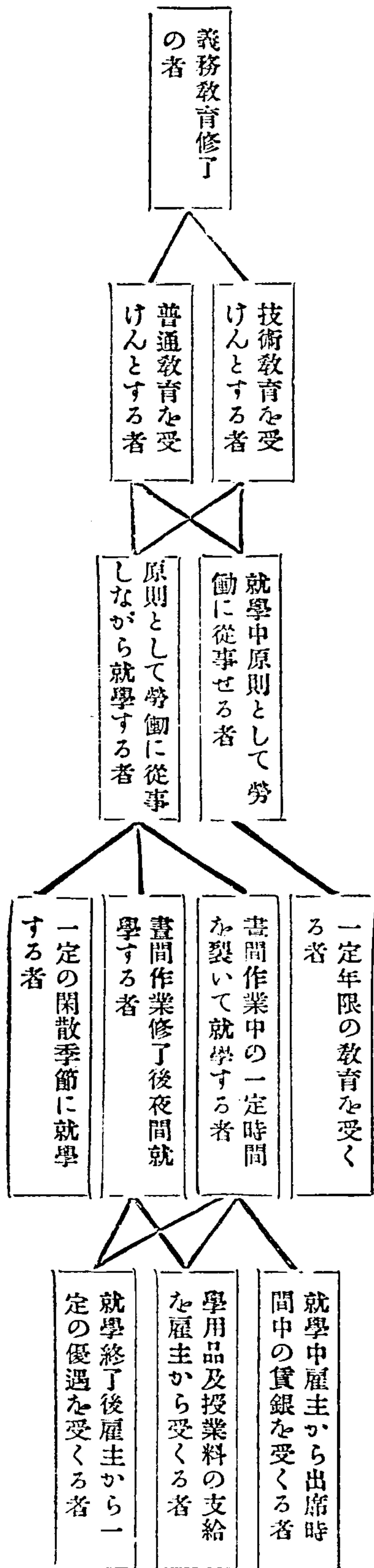
就學前の教育の程度

就學の目的

就學と労働

就學の時期

備考





(一)東京府立職工学校 内には本校の外に附属工業補習夜学校及附設適材教育部が設けてある。學則及内容効果は大體左の如くである。生徒及卒業者に關する調査は大正十一年七月現在である。

▲本校

第一章 總則

第一條 本校ハ徒弟學校規定ニ基キ建築業、電氣機械、紡績機械其他一般機械業ニ従事セントスル者ニ必要ナル智識技能ヲ授クル所(トス)

生徒

現在生徒數

學年	造家	家具	左官	煉瓦	塗工	計	木型	鑄工	鍛工	仕上	計	電氣	製作	合計
一學年	一五	五	八	五	三	三	五	五	六	三	三	一五	一五	八五
二學年	一八	四	三	六	三	三	四	五	六	三	三	一三	一三	八三
三學年	二	六	六	四	二	二	二	三	四	一五	二	三	三	七三
別科	二	二	一	一	四	四	一	一	一	八	一〇	五	五	二六

労働者の教育問題

第二條 生徒定員ハ本科三百十五名、別科三十五名以内トス

第二章 教科課程

第七條 本校ノ教科ハ之ヲ建築部、機械部、電氣部、紡績部ニ分チ建築部ニ造家科、家具科、左官煉瓦科、塗工科、機械部ニハ仕上科、鍛工科、鑄工科、木型科、電氣部ニハ電氣機械科、紡績部ニハ紡績機械科ヲ置キ生徒ノ志望ニヨリ其ノ一科ヲ専修セシム

第八條 各部ノ修業年限ハ三ケ年トス

第九條 每週授業時數ハ、各學年ヲ通シテ三十三時乃至四十二時トス

但シ必要ノ場合ニ於テハ授業定時間外又ハ休業中實習ヲ課スルコトアルヘシ

夏期休業前後凡三週間ハ二十八時マテ減スルコトアルヘシ

未定及ビ未詳	三二	三〇	五三
死者	一六	二一	三七
合計	一九四	三二二	五〇六
卒業生二名以上就職	官公署工場名	二	二
官公署、會社、工場名	宇野澤組鐵工場	二	二
東洋モスリン紡績株式會社	新潟鐵工場東京工場	二	二
海軍造兵廠	佃島製作所	二	二
日本電氣株式會社	株式會社芝浦製作所	二	二
東京砲兵工廠	鐵道	五	九
株式會社石川島造船所	日本鋼管株式會社	二	三
東京電氣株式會社	東京府立職工學校	四	四
三越吳服店加工部	碌々商店	二	二
遞信省工務部	卒業生の収入	二	二
第一 期(明治三十六年三月)	平均月収入額	七二・〇〇〇	二二
第二 期(同 三十七年三月)		四五・〇〇〇	二二
第三 期(同 三十八年三月)		四二・〇〇〇	二二
第四 期(同 三十九年三月)		四〇・〇〇〇	二二
第五 期(同 四十年三月)		三四・〇〇〇	二二
第六 期(同 四十一年三月)		四〇・〇〇〇	二二

第七 期(同 四十二年三月)	二九・〇〇〇
第八 期(同 四十三年三月)	二七・〇〇〇
第九 期(同 四十四年三月)	三三・〇〇〇
第十 期(同 四十五年三月)	三六・〇〇〇
第十一 期(大正二年三月)	二九・〇〇〇
第十二 期(同 三年三月)	二四・〇〇〇
第十三 期(同 四年三月)	一八・〇〇〇
第十四 期(同 五年三月)	二〇・〇〇〇
第十五 期(同 六年三月)	一八・〇〇〇
第十六 期(同 七年三月)	一六・〇〇〇

▲附屬補習夜學校

補習夜學校には國語漢文科、算術科、英語科、實驗理化科、圖畫科、建築製圖科、建築施工法科、建築規矩實習科、左官煉瓦實習科、機械製圖科、機械電氣實用計算科、原動機一般科、機械の英語科、木型實習科、實用電氣科等が設けてあつて各科の授業は一週一回又は二回である。それ故毎夜通學し得るものは一度に三科以上修める事が出来る。尙各科は三期に分けてある故各科の教科要目の第一期、第二期、第三期を自分の好む程度に於て學習し得るのである。授業料は一學期一圓であるが一科目の志願者も同一額である。尙實習科は實際労働に従事して居る者に教へる様に出來てゐるから實習科に入學希望の者は其職の人で工具の取扱位は出來ぬと習ふ上に不便である。

▲附設適材教育部

此部は日本に於て餘りの類もなく、吾人の知る限りに於ては本校に設置してある丈かと思ふ。其組織も大に注意に價するものある故概覽を示して我國職工教育の一參考に供したいと思ふ。

一、本教育部ノ沿革及要旨
本教育ハ明治三十八年五月東京商業會議所ニ於テ日露戰役後ニ於

ケル實業振策ノ一端トシテ職工教育ノ必要ヲ認メ該教育ノ最モ有効ナル方法ニ就キ中野商業會議所會頭ヨリ手島高等工業學校長ニ諮議セラレ同校長ノ成案ニヨリテ開始セラレタルモノニシテ同年八月芝浦製作所、石川島造船所、東京瓦斯株式會社、青木染工場ヨリ本教育ヲ東京府立職工學校ニ委託スル件ニ付キ東京府知事ニ出願シ同年同月許可セラレ本校ニ對シ其實施並ニ之レニ要スル經費豫算ヲ令達セラレ同年九月關係工場主ヲ本校ニ招致シ本教育ノ實施ニ關シ諸般ノ協議ヲ了シ同年十月二十七日始業式ヲ舉ケ十一月一日ヨリ授業ヲ開始シ毎年十二月ニ修了式ヲ舉行シ來リシカ大正五年度ヨリハ毎年四月ニ生徒ヲ收容シ翌年三月修了セシムルコトニ變更シ今日ニ至レルモノナリ

二、目的及組織

工場主が自己工場ノ發達上必要ト認メタル有爲ノ職工即チ職工中ノ適材ヲ選抜シテ當該工場ノ經費ヲ以テ最定期間其技術ニ關係アル學科ノ修身上ニ關スル教育ヲ課シ修了ノ上ハ其技能ヲ適所ニ發揮セシメ以テ其効果ヲ當該工場ノ事業上ニ收メントスルモノナリ併シテ生徒ヲ選抜スル標準ハ種々アレドモ各工場ノモノヲ綜合スレバ左ノ三ツノ資格ヲ具備スルモノトス

- 一、一定年限内該工場ニ勤續シ相當ノ功績アリ且ツ將來該工場ニ貢獻セントスル思想強固ナルモノ
- 二、相當ノ年齢ニ達シ思慮分別モ發達シ品性高ク學力ニ於テモ高等小學校卒業以上ノ實力アルモノ
- 三、技術上ノ手腕ニ於テモ先ヅ上流ノ位置ヲ占メ一般職工ニ範ヲ示スニ足ルモノ

以上ノ條件ヲ具備スル職工ハ希望ニヨリ本部ノ生徒タランコトヲ工場主ニ志願セシメ其内ヨリ選擇スルモノニシテ其選抜ヲ受ケタルモノハ一箇年間毎週二回毎回午後ヨリ其操業ヲ免セラレ通學スルモノニシテ其間ハ工場ニ勤務スルト同様ノ賃銀ヲ支給セラレ加フルニ電車賃、筆墨料ハ工場主ニ於テ負擔スルモノトス

勞働者の教育問題

- ### 三、規則
- 第一條 本教育ハ當業者ノ委託ニ基キ當該工場ニ於ケル職工ノ適材者ニ對シテ其ノ業務ニ必須ナル智識技能ヲ授クルモノトス
 - 第二條 教科目ハ算術製圖及工業ニ關スル事項トス
 - 第三條 每週教授日數ハ二日トシ其ノ時數ハ每週六時間トス
 - 第四條 教科課程ハ左ノ如シ

學科	算術	製圖	工業ニ關スル事項	計
每週教授時數	一	二	三	六

本表ノ外左ノ課業ヲ課ス

修身講話ハ一ヶ月二日臨時ニ之ヲ授ク

自宅課業ハ一日約一時間ニ該當スル分量ヲ宿題トシテ之ニ課ス

- 第五條 修業期間ハ一ケ年トシ四月一日ヨリ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第六條 休業日ハ本校ノ休業日ニ等シキモノトス
- 第七條 一組ノ生徒數ハ六十名ヲ限リトス
- 第八條 入學セント欲スル者ハ左ノ資格ヲ備フルヲ要ス

- 一、年齢十六歳以上
- 一、學力可成高等小學卒業以上ノ者
- 一、現ニ職工ノ業務ニ從事シ傭主ノ選抜ヲ受ケタル者
- 第十一條 入學願ハ傭主ニ於テ之ヲ取纏メ學校長ニ差出スヘシ
- 第十二條 退學願ハ傭主ニ於テ其理由ヲ具シ學校長ニ差出スヘシ
- 第十三條 修了者ハ修了證書ヲ授與ス
- 但シ出席日數ノ十分ノ九以上ニ達セサル者ニ對シテハ修了證書ヲ授與セサルコトアルヘシ
- 第十四條 傭主ハ生徒ニ對シ其通學時間ニ對スル賃銀ヲ給シ且ツ筆墨費ヲ給與スルモノトス
- 第十五條 生徒ハ卒業後傭主ノ工場ニ於テ相當期限勤續ノ義務ヲ負

日本労働年鑑

フモノトス

四、現在生徒、修了生、一覽表

依託工場名

株式会社芝浦製作所、株式会社石川島造船所、東京瓦斯株式会社、日本電気株式会社、田岡工場、井口工場、東京モスリン紡績株式会社、東洋モスリン株式会社、東京キヤリコ製織株式会社、市原ボンブ諸機械製作所、

教科目

修身、算術、工作法(機械學大意・仕上術・鑄造術・製罐及鍛工)機械製造、紡織

修業年限

一ヶ年間(毎週水曜、金曜、兩日午後二時ヨリ同五時マデ三時間宛)

現在生徒數

科別	依託工場	芝浦	石川	東京モ	東洋	東京	日本	合計
機械科	芝浦製作所	三	六	一	二	四	六	一六
紡織科	石川島造船所	三	六	二	三	八	一	一六
計		三	六	二	三	三	六	一六

入學前學歷

工場別	尋常	高等	高等	高等	高等	中等	其他	合計
芝浦製作所	三	四	一	二	三	二	一	一六
石川島造船所	一	一	一	一	一	一	一	七
東京モスリン	一	一	一	一	一	一	一	七
東洋モスリン	一	一	一	一	一	一	一	七
東京キヤラコ	一	一	一	一	一	一	一	七
日本電気	一	一	一	一	一	一	一	七
計	一	一	一	一	一	一	一	七

年 齡

工場別	十六以上二十以下	二十以上二十五以上	二十六年以上	三十五以上	三十六以上	合計
芝浦製作所	一	一	一	一	一	五
石川島造船所	一	一	一	一	一	五
東京モスリン	一	一	一	一	一	五
東洋モスリン	一	一	一	一	一	五
東京キヤリコ	一	一	一	一	一	五
日本電気	一	一	一	一	一	五
計	一	一	一	一	一	五

賃 金 別

工場名	日給額	芝浦製作所	石川島造船所	合計
芝浦製作所	五十錢未滿	一	一	二
	五十錢—七十錢	一	一	二
	七十錢—九十錢	一	一	二
	九十錢—一圓	一	一	二
	一圓—一圓二角	一	一	二
	一圓二角—一圓五角	一	一	二
	一圓五角—一圓七角	一	一	二
	一圓七角—一圓九角	一	一	二
	一圓九角—二圓	一	一	二
石川島造船所	六十	一	一	二
計		一	一	二

井口工場		-										
東京モスリン紡織株式會社												
東洋モスリン株式會社												
東京キヤリコ製織株式會社									二〇	七	二〇	
市原ポンプ諸機械製作所										三	七	
合計	六	三〇	七	三	三	三	二七	三	三	九	六二	四三

修了生大部分ハ殆ンド本教育ヲ受ケタル時ノ工場ニ勤續シ現ニ約二割ハ職長、組長等重要ノ位置ヲ占メ中ニハ社員ニ拔擢セラレシモノアリ

五、工場主ノ負擔スル經費

生徒一人ニ付筆墨料及學校ニ納付スル育費ヲ合算シテ一ケ年十五圓強トナル
 尙工場ニテハ生徒登校當日ヨリノ給料全部ヲ支給シ且ツ學用品並ニ電車賃ヲモ給與ス

尙本校では一週一回宛職工の爲め講演會を開いて居る。

(二) 大阪府立職工學校 西野田と今宮とに

二つあるが双方共程度は同一である。歴史は西野田の方が古い、今宮の方は元西野田の分校であつたのが大正五年に獨立したのである。西野田の本校には徒弟學校規程に據る本校の外、府立工業補習學校、私立大阪工業會設立工業專修學校中等部等が設けてある。(以下西野田校の大正七年三月現在の概要を記述するに止め

る。

▲本校

本校は徒弟學校規程に據つたもので、東京のと同様である。

生徒年 齡

種 別	第一學年	第二學年	第三學年
最高	二三年二ヶ月	二五年〇ヶ月	二五年四ヶ月
最低	一三年一ヶ月	一四年一ヶ月	一五年一ヶ月
平均	一五年八ヶ月	一六年一ヶ月	一七年九ヶ月

入學前ノ學歷

種 別	第一學年	第二學年	第三學年	計
尋常小學校卒業生	五四	三六	三九	一二九
高等小學校卒業生	六七	六六	四五	一七八
中學三年以上修業者	二	二	一	四
計	一二三	一〇四	八四	三一四

入學者ト卒業生トノ歩合

種別	年						計
	十四年度	十五年度	十六年度	十七年度	十八年度	十九年度	
入學者數	九	二五	二七	二八	二六	七二	二七
卒業生數	三	五	七	八	七	四八	七九
歩合	〇、四三	〇、四六	〇、四四	〇、四三	〇、四六	〇、四六	〇、四六

在學中ノ成績

種別	年			成績
	第一學年	第二學年	第三學年	
尋常卒業	六、五六	六、五〇	六、五六	變化ナシ
高等小卒業	六、九九	六、九三	六、八七	漸次降下
中學三年以上	七、八九	八、〇四	八、〇五	漸次向上

卒業生月収入

第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回
最高	二五〇、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	四一〇、〇〇〇	四九〇、〇〇〇	五七〇、〇〇〇	六五〇、〇〇〇
最低	三、〇〇〇	七、〇〇〇	一一、〇〇〇	一五、〇〇〇	一九、〇〇〇	二三、〇〇〇
平均	四〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	七〇、〇〇〇	八〇、〇〇〇	九〇、〇〇〇

▲府立工業補習學校

此部の目的は左の入學案内が示して居る様であるが特に現校長が力を入れて居るのは時間割にある如く毎日修身が三十分づゝ講ぜらるゝ事である。

入學案内

一、場所 北區西野田大開町で市電野田阪神停留所の西方約三丁の所にある大阪府立野田職工學校内であるから通學には至極便利である尙市電通學回数券を受くる事も出来る

労働者の教育問題

二、目的 晝の間職に就て居るものの爲に其職業に直接應用の出来る斬新な智識と學理的の技能を補習せしめ併せて職工の人格を高め社會上に於ける其位置を進めたいと云ふのが目的である

三、教科及修業期間 夜學校に來て勉強しやうと云ふ人は晝間職業に疲労して居る人が多いから成るべく窮屈でなく愉快に興味を以て學ぶことが出来るやうに仕向ける必要がある本校の教師は永年の經驗により其秘訣は充分研究を積んで居るから決して入學生を失望させる等の憂は無い又期間を四ヶ月の短期とし毎週の教授日數も三日位に定めたるのも疲労せる境遇を考へて左程の困難を感じず此の必要なる教育を受けさせ度いが爲めである前記の設置教科の内製圖と實習とは幾回も同じ科に通學する方が良い斯る熱心な諸君には特別に益々高尚な程度迄教授を進めて行くのである

時間割

科目	修身	曜日			
		火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
機械設計製圖科	三十分	二時間	二時間	二時間	二時間
建築設計製圖科	三十分	二時間	二時間	二時間	二時間
家具設計製圖科	三十分	二時間	二時間	二時間	二時間
彫刻及石膏細工實習科	三十分	二時間	二時間	二時間	二時間
木象嵌及着色實習科	三十分	二時間	二時間	二時間	二時間
鑄工實習科	三十分	二時間	二時間	二時間	二時間
機械實習科	三十分	二時間	二時間	二時間	二時間
鍛工實習科	三十分	二時間	二時間	二時間	二時間
塗工實習科	三十分	二時間	二時間	二時間	二時間

入學及卒業生一覽

種別	回数		平均
	自第一回	至第二七回	
入學者數	七三五九	二七三	二五〇
卒業者數	四五八一	一七〇	
歩合	〇、六二	〇、六二	
生徒年齢			

種別	回数		平均
	自第一回	至二七回	
最高	五	四才	七才
最低	一	二才	四才
平均	二	一才	二才

▲私立大阪工業會設立工業專修學校中等部

此部は甲種工業學校の科目と略ぼ同様の科目を夜學で開講して居るのであるが實習も少く、歴史も新らしいから特に其成績に著しいものは見當らない。此部の高等部は官立大阪高等工業學校内にある。普通部には技術者たらんとする者多く入學して居るが高等部には其傾向一層強く、職工などは殆どない。

尙本校には一般職工教育の目的を以て毎月一回職工教育慰安會を開いて居る。

(三) 私立住友職工養成所 我國に於て私立

の職工養成所中最も大規模のものであつて技術教育を主眼とする點に於ては私立の職工養成所中他に類のない程よく整頓したものである。現所長の云ふ所による

と「既に學校と命名すると何時とはなしに學科とか、授業時間とか云ふものに捕はれる様になるから此名を避けて職工養成所と號したのである、此様な次第であるから學科のよく出来る者には授業中でも實習の方に向はしめ、少年の技能の發達するまゝに應じて之を訓練して行くのである。而して訓練の大綱は之を使用する方面の人から觀て成程よい職工であると云ふ感じを傭主に起さす様に育て上げるのを目的として居る」と。本所の設立者は住友男爵で幹部は住友家の役員である。其大體の内容は次の如くである。

○當所の目的 大阪市外並に其附近に於ける家計困難なる者の子弟に職工として必須なる智識及技能を授け、且其品性を陶冶し、以て着實善良なる職工を養成するの目的を以て設立せられたるものであります。それ故當所に入學せんとする人は

第一 大阪市並に市の附近(接續町村)に住んで居る人の子弟でなくてはなりません。其他の地方に住んで居る人の子弟では入學を許しません。又此養成所に入學するが爲に、他地方から當市又は附近に居住を移して來た人の子弟も入學資格はないのです。

第二 家の暮しが裕で、此種類の他の學校で修業の出来る資力と便宜のある人では是又當所の目的に適つて居らぬのです。當所に入學し得るは貧しき活計の家の子弟に限りま

第三 當所は立派な職工を養成するのを唯一の目的として居るので、技手や技師になる人を養成する所ではないので

す。又高等の學校に進む爲の豫備教育をする所でもないのです。それ故當所に入學する人は、一生涯職工となつて働かうといふ堅い決心覺悟を持つた人でなくてはなりません。

當所は上述の目的を達する爲に、職工として働くのに最も必要で、最も適切な事柄を選んで之を教授し、又所内に特設せる工場に於て實地の仕事を十分練習させ、終了後は直ちに職工として用立つ様に仕立つるのであります。又之と同時に人間に最も大切な品性の陶冶に重きを置き、職工として缺くべからざる心得方を訓へ、一に之を實踐せしめ、以て著實善良なる職工たらしめんことを期するのであります。當所の名稱を學校と云はずして養成所としたのも全く上述の主意に基いたのであります。

○教科即職業の種類 當所に設けてある教科は、左の五種に分れて居りますから、入學を申込むには其内何れか一つ自分の志望するのを選んて、申込書に記入することが必要であります。

一、仕上科 鋳並に諸機械組立の仕事をする職

二、旋工科 専ら旋盤の仕事をする職

三、鍛工科 火造り鍛冶の仕事をする職

四、鑄工科 鑄物を作る職

五、木型科 鑄物の木型を拵へる職

○修業年限 は何れも三箇年であります、生徒の成績の良否によつて伸縮することになつて居りますから、特別出來のよい人は早く修了し、出來の悪い人は三年以上かかることになり、早

○志望者の資格 入學志望者は、次の事柄を悉く備へて居る人でなくてはなりません。

- 一、一家が大阪市又は其附近に住んで居て、且活計の貧困なる人の子弟たるべき事(目的の項参照)
- 二、尋常小學校を卒業した人、又は之と同等以上の學力ある人
- 三、身體健全で、數へ年十三歳以上十六歳位までの人。

労働者の教育問題

四、品行が良く、又修業中途で退學せねばならぬ様な事情のない人。

○授業料其他學資 授業料は要しませぬ。又修業に必要な工具、機械、材料、教科書、製圖用具等は、一切當所から貸し與へ、筆紙墨等は當所から支給します。

本所は本年四月第一回の修了者を出したのであるが其就職状況は左の如くである(本年九月調査)

就職状況	計				
	仕上科	旋工科	鍛工科	鑄工科	木型科
工場勤務者	七	八	二	七	五
將來自營の目的に	一	一	一	一	一
未	一	一	一	一	一
計	七	八	三	八	五
實收口額	壹圓八十錢以上	壹圓四十錢以上	壹圓二十錢以上	壹圓以上	壹圓三十三錢
就職以來缺勤調	無 缺勤	二日 缺勤	三日 缺勤	四日 缺勤	五日 缺勤
總平均	四	九	二	二	二

七日 缺勤	三
八日 缺勤	一
九日 缺勤	〇
十日以上	五
缺勤總日數	二二三日
内病缺	一六四
其他	五八

就 職 所	安 治 川 鐵 工 所	住 友 鑄 鋼 所	大 阪 鐵 工 所	大 榮 鐵 工 所	川 崎 鐵 工 所	住 友 伸 銅 所	作 山 鐵 工 所	松 井 鐵 工 所	安 田 鐵 工 所	沖 電 氣	汽 車 會 社	豐 田 織 機	中 村 木 型 工 場	奉 公 中	當 職 工 養 成 所
	四	三	一	一	一	一	一	一	二	一	一	一	一	一	〇

(四) 兵庫縣立工業學校夜學部 は工業學
 校内に別科として設けてあるものであるが、生徒は現
 に工業に従事し又は將來従事せんとする者である。
 教科は機械、建築、電氣の三科で修業年限は二ケ年で

ある。在校生(職業別)及卒業生の概覽は左の如くであ
 る。

在學生徒表

職業別	建築科		機械科		電氣科		計
	學第一	學第二	學第一	學第二	學第一	學第二	
木 工	二	一	：	：	：	：	三
土 木 業	：	三	：	：	：	：	四
發 動 機 取 扱	：	：	三	二	：	：	九
紡 績 機 械 工	一	：	八	五	三	：	一七
組 立 工	：	：	八	六	一	：	一五
仕 上 工	：	：	九	六	三	：	一九
鍛 冶 工	：	：	一	六	九	：	三〇
製 罐 工	：	：	四	三	一	：	一六
旋 盤 工	：	：	九	一	：	：	一〇
造 船 工	：	一	：	三	：	：	二五
鑄 造 工	：	：	一	五	：	：	二七
木 型 工	：	：	二	：	：	：	二
圖 工	一	：	八	三	二	：	一七
電 工	：	：	：	：	四	：	二
電 機 製 作 工	：	：	一	二	四	：	七
雜 工 業	二	一	七	九	三	四	二六
分 橋	三	：	：	：	：	：	六

官公吏	事務員	商店員	給仕	家事手傳	其他	無職	計	就職場所別	造船所	鐵道院	電氣會社	紡績會社	瓦斯會社	鐵工場	製造工場	雜工場	官公署	商會社	商店	工業事務所	自宅	其他	計	
								建築科																
								同二年																
								機械科																
								同二年																
								電氣科																
								同二年																
								計																

卒業生就職別表

從前教育別	建築科	同二年	機械科	同二年	電氣科	同二年	計
夜業部第一學	：	一四	：	五三	：	三三	一〇〇
高等小學卒業	二四	二	七六	：	六八	：	一七〇
中學校第三學	二	二	四	一	八	：	一七
中學校第四學	：	：	：	一	：	：	：
中學校卒業	：	：	：	一	：	：	：
中等學校卒業	：	一	：	三	：	二	六二
專門學校卒業	：	：	：	二	：	：	：
高小卒業後補	五	：	二六	三	一九	：	二五五
習修業	二	：	二	：	四	：	八
高等小學未卒業	：	：	：	：	：	：	：
夜學部卒業	：	：	：	：	：	：	：
計	三四	一九	一二〇	六四	一一〇	三九	三八六
官廳	一一	三	三	一七	三	計	三一
電氣會社	二	一	三	三六	四		四一
瓦斯會社	一	二	一	二	一		四
紡績會社	二	九	五	四	一		一五
造船所	六	七五	二七	五二	一三		三三
鐵道院	五	五	五	二七	五九		五九
製造工場	：	：	：	：	：		六
建築工場	一五	：	：	：	：		六
自營	五	二	：	：	：		七

雑工場	一	四	五	一〇
鐵工場	：	一〇	一	二一
其他	一	六	二二	一九
死亡	計	四九	一四六	三三五
合計			一六〇	三五五

(五) 神戸市立實業補習學校

は神戸市内

に二三ヶ所ある。内容は高低同一であつて、商工補習教育を主眼として居る。其内兵庫の實業補習學校に就て觀るに普通科と實業科とに分れ、更に普通科は六科實業科は三十二科に分れて居る。此小分料は一週六時間六ヶ月で修了出来るのであるが、各小分科の難易によつて一小分科で一科目となるものもあり、又數小分料で一科目となるものもある。例へば英語の如きは六小分科に分れて居る故全科を終るには三ヶ年を要する譯である。而して各小分科に入學するにはそれぞれ入學者の具ふべき學力を必要として居るから各科の生徒は略ぼ同一程度の學力のものである。例へば木型鑄工科に入學する者には英語A科、實用數學乙科修了以上の者としてある。本校には川崎造船所の職工が多數に入學して居るが川崎では生徒の學用品授業料を負担し、且つ一小分科修了者には修了毎に一定の賃銀増額

の途を開いて居る。

(六) 京都市立商工補習學校

は一般商工補

習教育の外特に京都地方の工業に必要な知識技能を授けるのを目的とし、教科は工業科にあつては甚だ専門的に分れ、機械製圖、同講義、建築製圖、同講義、陶磁器、圖畫、圖案、彫刻、色染、機織、分析、軋軋科等になつて居る。修業期間は各六ヶ月で頗る精密に部分的の教育を施すのを特長として居る。生徒數、其年齢及職業別は次の如くである。

年 齡	前 期	後 期	計
十五 年 未 滿	五八二	二九九	八八一
二十 年 未 滿	七五七	八六四	一、六二一
二十五年未滿	二二二	二二二	四三四
學 科 別 生 徒 數			
國 語	四〇五	二四	二四
算 術	二〇八	七三	二八
商 事 要 項	四九	二一	七〇
商 業 書 信	二〇四	八	二一
商 業 算 術	二九三	二七	三二〇
簿 記	六一	三	六四
英 語	三〇三	九	三一
圖 畫			
物理化學			
代數幾何			
製圖初步			
機械製圖			
建築製圖			
陶磁器			
機織			
彫刻			
色染			
機織			
分析			
軋軋			

職 業	計		職 業	計	
	前期	後期		前期	後期
商 業	五五四	五二六	一、〇八〇	一、一二五	三、〇四三
工 業	五七三	五五二	一、〇八〇	一、一二五	三、〇四三
農 業	一一	二七	三八	三八	三、〇四三
庶 業	二二八	一五二	三八〇	一九一	三、〇四三
學 生	一〇五	八六	一九一	一九一	三、〇四三
無 職	一四八	八一	二二九	二二九	三、〇四三
計	一、六一九	一、四二四	三、〇四三	三、〇四三	三、〇四三

大阪市内鐵道院從業員教育程度

鐵道院各驛及停車場雇員教育程度表

職 掌 別	教 育 程 度	
	一	二
構 內 主 任	一	二
出 札 掛	一	二
小 荷 物 掛	一	二
計	一	二

労働者の教育問題

大阪市役所調査係では本年八月末日現在で左の教育程度標準に従つて交通労働者の教育程度を調査した。

教育程度標準

- 一、全ク文字ヲ知ラザルモノ、
 - 二、自己ノ住所氏名ヲ書キ得ル程度ノモノ、
 - 三、四年程度尋常小學校半途退學者、
 - 四、四年程度尋常小學校卒業者、
 - 五、四年程度高等小學校半途退學者、
 - 六、四年程度高等小學校卒業者、
 - 七、六年程度尋常小學校半途退學者、
 - 八、六年程度尋常小學校卒業者、
 - 九、二年程度高等小學校半途退學者、
 - 一〇、二年程度高等小學校卒業者、
 - 一一、中等學校半途退學者、
 - 一二、中等學校卒業者、
 - 一三、以上各項ニ該當セズ相當教育アルモノ、
- 表中數字の右肩に※印あるは女子である、

職	一	二	三	四	五	六	七	八	九	〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	〇	計
貨物驛夫			一	一	三	〇	八	四	三	〇											一
整燈手			一	一	一			四	三	二											三
連結手			二	二	二	二	三	八	〇	二	四										三
連結手見習				二					一	三											五
踏切番		五	四	二	七	一	五	二	二	七											六
合計	一	五	七	三	〇	〇	二	六	二	六	八	二	一	一	一	一	一	一	一	一	七

大阪及湊町運輸事務所車掌機關手及職工教育程度表

職	一	二	三	四	五	六	七	八	九	〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	〇	計
車掌員			二	二	二	一	八		二	四	〇	三	三								三
車備人				九	三	一	五														〇
機關手		二	一	六	五	三	五	一	一	九	〇	五		二	二	五					二
同見習					三	一	四	一	一	四	一	一									五
機關手助手(火夫)			一	四	五	六			四	一	八	五									二
同見習					三	一	一	二	一	八	五										七
職工		四	六	五	六	元	一	七	六	八	一	二	一	二	二	九					一
合計		六	〇	二	四	二	九	二	七	三	五	五	四	二	五	一	二	一	一	一	二

郊外電車運輸從事員教育程度表

職	一	二	三	四	五	六	七	八	九	〇	一	二	三	四	五	六	七	八	九	〇	計
合計		六	〇	二	四	二	九	二	七	三	五	五	四	二	五	一	二	一	一	一	二

労働者の教育問題

職 掌 別	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	計
驛長	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	10
助役	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14
監督	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14
車掌	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	200
運轉手	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50
驛掌	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7
轉轍手	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4
信號手	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
踏切番	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5
役夫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	17
貨物係	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
驛夫及掃除夫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7
改札員	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7
出札員	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
信號手、轉轍手兼務	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
合 計	※10	※35	※147	※197	※355	※496	3	※35	※133	※33	15	3	※282

郊外電車定夫教育程度表

合 計	動力関係			車 輛 職 工	電 氣 関 係		關 係			道 路		軌 道	
	注 意 計 度	火 油 夫	火 油 夫		見 習 線 夫	線 夫	石 工	大 工	塗 工	線 路 工 夫	鍛 冶 工 夫	測 量 工 夫	測 量 工 夫
※ ₁₅ 一	一	一	一	※ ₁₅ 一	一	一	二	一	一	一	一	一	一
※ ₁₆ 六	一	一	一	※ ₁₅ 六	六	六	二	一	一	一	一	一	六
※ ₁₇ 二	二	四	七	※ ₁₇ 三	三	三	二	六	一	一	一	一	二
※ ₁₈ 七	五	六	四	※ ₁₈ 七	四	八	一	二	二	六	一	一	二
二〇	一	七	七	二	五	五	三	三	三	三	一	一	二
二五	七	三	七	六	六	一	六	一	一	四	一	一	一
三〇	一	五	六	五	四	一	三	二	一	一	一	一	一
※ ₁₉ 三	一	三	二	※ ₁₉ 六	六	二	四	一	一	三	一	一	六
三	一	一	一	二	四	三	一	四	一	一	一	一	一
三五	六	二	八	六	三	二	三	六	一	三	二	一	一
※ ₂₀ 六	三	一	二	※ ₂₀ 六	七	一	七	一	一	一	一	一	一
※ ₂₁ 三	一	一	一	七	三	一	三	二	一	一	一	一	一
三	三	一	一	三	一	一	六	一	一	一	一	一	二
※ ₂₂ 一	一	一	一	※ ₂₂ 一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
※ ₂₃ 二	一	一	一	※ ₂₃ 二	二	二	二	二	二	二	二	二	二

大坂市内某機械工業職工教育別調

(大正八年八月末現在)

出身地方別	無教育	尋常小 學中途 退學	尋常小 學卒業	高等小 學中途 退學	高等小 學卒業	高等小 學卒業 以上	計
東京(市)	三	一	六	二	二	一	一三
東京(町)	一	一	一	一	一	一	六
神奈川(市)	二	一	一	一	一	一	七
神奈川(町)	一	一	一	一	一	一	六
神奈川(村)	一	一	一	一	一	一	六
千葉(市)	一	一	一	一	一	一	六
千葉(町)	一	一	一	一	一	一	六
埼玉(町)	一	一	一	一	一	一	六
群馬(村)	一	一	一	一	一	一	六
栃木(市)	一	一	一	一	一	一	六
茨城(村)	一	一	一	一	一	一	六
福島(村)	一	一	一	一	一	一	六
宮城(村)	一	一	一	一	一	一	六
青森(市)	一	一	一	一	一	一	六
山形(町)	一	一	一	一	一	一	六
山形(村)	一	一	一	一	一	一	六
計	一	一	一	一	一	一	六

滋賀(村)	福井(町)	石川(市)	富山(町)	新潟(市)	山梨(村)	長野(村)	岐阜(町)	愛知(市)	静岡(町)
六	二	一	六	二	一	五	一	一	二
二	一	一	二	一	一	一	一	一	一
二	一	一	二	一	一	一	一	一	一
二	一	一	二	一	一	一	一	一	一
七	二	一	七	四	一	二	一	二	一
七	一	一	七	二	一	五	一	二	一
七	二	一	三	一	一	一	一	二	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

山口 (村)(町)(市)	広島 (村)(町)(市)	岡山 (村)(町)(市)	兵庫 (村)(町)(市)	大阪 (村)(町)(市)	和歌山 (村)(町)(市)	三重 (村)(町)(市)	奈良 (村)(町)(市)	京都 (村)(町)(市)
二	七六六	六七	四三二	三五三	五 一	五二	二二一	五三二
	三	四	六一一	五五三	二	二	二	三
一 一	九三七	三八二	八二〇	七四二	二 一	元一 二	三四一	八八六
三 一	三四六	六一	六七三	三五三	五二	五二	八二	四二五
五二	四四三	三四一	九七三	八五三	二七	三六一	三八一	六四五
一 一	四二二	七	二三	六三七	二 一	四 一	九	一 一
三四一	一五五	四三三	八元三	一五七	四三二	空三四	三六三	五六元

徳島 (村)(町)(市)	鹿児島 (村)(町)(市)	宮崎 (村)(町)	大分 (村)(町)	熊本 (村)(町)(市)	長崎 (村)(町)(市)	佐賀 (村)	福岡 (村)(町)(市)	鳥取 (村)(町)(市)	島根 (村)(町)(市)
五二	七 一		二二	二		一		一 一 三	五
四二	二	一	一 一			一		一	一
四〇三	七 三	六	九四	四一	二一		一一三	五四一	七 一
三七二	八 二	一	四一	一一	一		一	八一	一一
四七二	五三七	二	九八	一 一	二 一	三	二 一	五七一	四五
二 一	九	二 一	三	二 一		一 三	三	五	二 一
三九七	一八三	二二	八五	九三二	四一 二	六 五	三三 五	三六 五	九七二

工業種類	染織工		樂工		工場數		職工數		性別		中等學校		高等小學校		尋常小學校		不就學				
	村	町	區	村	町	市	村	町	市	村	町	市	村	町	市	村	町	市	村	町	市
北海道																					
高知																					
香川																					
愛媛																					

工業種類	染織工		樂工		工場數		職工數		性別		中等學校		高等小學校		尋常小學校		不就學				
	村	町	區	村	町	市	村	町	市	村	町	市	村	町	市	村	町	市	村	町	市
北海道																					
高知																					
香川																					
愛媛																					

職工數	朝鮮(村)	合計(市)	合計(町)	合計(村)	不明	總計
一	一	一	一	一		一
一	一	一	一	一		一
一	一	一	一	一		一
一	一	一	一	一		一
一	一	一	一	一		一
一	一	一	一	一		一
一	一	一	一	一		一
一	一	一	一	一		一
一	一	一	一	一		一
一	一	一	一	一		一
一	一	一	一	一		一
一	一	一	一	一		一
一	一	一	一	一		一

福岡縣下職工の教育狀態

福岡縣府調查大正八年七月五日現在の同縣下職工の教育狀況は次表の様である。

飲食物工業

化学工業

機械器具工業

計	五〇				計	一〇七				計	一五七			
	十八歳以上	十八歳未滿	十四歳未滿	十二歳未滿		十八歳以上	十八歳未滿	十四歳未滿	十二歳未滿		十八歳以上	十八歳未滿	十四歳未滿	十二歳未滿
一、九四	一、七五	一七	〇	一	一〇、五五	八、五六	一、八〇	二七	一	九、〇三	七、六四	一、三八	七	一
女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
四四	四四	一	一	一	二九	二八	一	一	一	三三	三三	一	一	一
三八	三六	一	一	一	二七	二六	一	一	一	二〇	一七	一	一	一
六〇	四九	八	一	一	二、五〇	二、二六	四	一	一	三、七三	二、六三	六	一	一
三九	三九	一	一	一	一、三三	七、〇五	二〇	一	一	一、一五	一、〇三	二	一	一
一、七〇	一、五三	四	八	一	三、五三	三、〇〇	二、五〇	二、七三	一	二、八九	二、四九	四	三	一
一七	一五	三	一	一	一、〇七	七、九一	一、七	四	一	六、九	五、六	二	一	一
六六	四六	二	一	一	三、八一	三、五	八	一	一	二、九	二、六	一	一	一
九三	六三	一	一	一	一、五五	一、三	二	一	一	一、〇五	六、九	二	一	一
一、五〇	一、四六	七	八	一	一、八、九四	一、七、二八	一、三、七	一、三、五	一	八、六三	七、二四	一、三、五	三	一

計		合				業工別特				業工雜				
		四五六				一五				三二				
計	十八歲以上	十八歲未滿	十四歲未滿	十二歲未滿	計	十八歲以上	十八歲未滿	十四歲未滿	十二歲未滿	計	十八歲以上	十八歲未滿	十四歲未滿	十二歲未滿
三、五、六、七	二、七、一、五	七、三、一	一、一、八		二、九、八	二、五、九、三	三、五			二、七、〇、九	一、八、〇、八	七、三	二、九	
女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男	女男
三三	六六	五三								二四	二四			
二、五、四	三、六	八、六	一、		二、五		二、五			三、四	六、四	六、三		
八、四、一、七	六、九、三	一、四、三			一、二、七		一、〇、八			一、九、六	二、七、一	九、七		
二、八、九、六	二、三、一	二、四、一	三、七		一、四、四		一、三、三			一、八、五	一、〇、〇	六、四	五、一	
五、九、八、七	八、八、九	二、三、二	七、二		一、〇、六		一、〇、四			八、五	三、四、七	二、三、九	九、九	
二、二、五	一、八、八	六、七	二、六		九、九		六、九			三、九	一、八、三	九、三		
一、九、七	二、六、八	二、六	三、一		三、三		三、三			三、七	三、七			
四、〇、五	三、八、四	九、〇	二、五		九、三		七、三			三、三	三、三			
一、〇、七、五	二、〇、九、五	三、七、四	九、三		二、五、九、五		二、三、五			一、四、六	九、八	四、九、七	九、〇	

鹿兒島縣に於ける職工教育狀況 (大正六年十月調)

工業種類	工場數	職工數	男女別職工數	尋常小學校		高等小學校		中等學校		專門學校		不就學		
				中途退學	卒業計	中途退學	卒業計	中途退學	卒業計	中途退學	卒業計	有筆	無筆	
染織工場	三〇七、一三三	八三三	男 六三〇 女 二〇三	一〇三	三、四九四	一八四	三九八	一八四	五八二	一	二五八	二〇九	七二四	九九三
器具工場及機械	三三	三五	男 三〇八 女 七	一八	一、二七	一三五	四	四	一六	一	一六	二	九	六
化學工場	七	九	男 九 女 〇	九	二	二	二	一	一	一	一	一	三	三
飲食物工場	八	一六	男 一三 女 三	一〇	七六	六	六	六	二六	一	四	四	九	一〇
雜工場	三	五四〇	男 四八〇 女 六〇	四〇	二、六八	六九	一、二〇	一、二〇	一、七九	一	四	三	八	二九
特別工場	二	六	男 六 女 〇	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

労働者の教育問題

六三三

せる外、市内小學校中適當の場所を選びて二十校に商工補習學校を設けて居るが、尙一層効果を擧ぐる爲に商業徒弟補習講習會を六月十六日より七月十七日迄毎週月木兩日、午後七時より九時迄東區船場小學校で開くこととした。應募資格は高等小學卒業以上の學力ある者と定めて居るが今後時々此種の講習會を續いて開き補習教育の實績を擧ぐるに努むる筈である。

陸軍工廠職工智識の進歩

六月十七日大阪毎日新聞所報によれば先頃大阪砲兵工廠で陸軍共濟會の評議員選舉を執行した時、或る工場に二名の棄權者があつた。庶務課長は何か不平があるのではないかとそれとなく訊いて見ると、『自分等は新參職工で各候補者の爲人を知らない、若し自分等が無意味に投じた一票の爲に多數の人々が迷惑を蒙つてはならないから、多數の意思を尊重する爲に棄權したのです』と云ふた。課長も今更なから職工連の頭腦の進んでゐるのに感心したと云ふ。

文部省の通俗教育と勞働教育

文部省では七月初旬社會教育調査の一課を新設して其調査に着手し、各地方長官に對して左記事項の報告を求めた。

- 一、青年團體の一般狀況に關する件。
- 二、補習教育に關する件。(イ)、設備(教場、圖書館、文庫、教科書實地設備、教師に關する事項)、(ロ)、教授に關する事項、(ハ)、團員に關する事項、(ニ)、費額及其財源、(ホ)、青年團員に對して補習教育を強制的に施行しつゝあるもの數。
- 三、體育に關する件。
- 四、娛樂に關する件。
- 五、團體訓練に關する件。

大阪市の夜間小學校就學兒

童の勞働時間短縮

七月二十九日大阪市内夜間教授小學校長會議が開かれ兒童の就學、出席歩合を増加する爲、官憲及び方面委員と聯絡を保ちて是が督勵をなすと共に、他方傭主に學童の勞働時間を短縮せしめ、勞働による就學の妨

害を防ぐ様に市長をして盡力せしむる件を協議した。

岡山縣小田郡南部の職工教育状態

八月二日の中國民報の記載によれば、岡山縣小田郡南部の工場数は二十二にして現今使用職工數千二百九十九名である。其教育状態は調査の結果、中等學校卒業二名、同上一部修業十二名、高等小學卒業百十七名、同上一部修業七十名、尋常小學卒業六百三十二名同上一部修業二百名、不就學有筆者百二十一名、無筆者百四十五名であつた。

工業教育調査委員會設置

文部省にては省内に新に工業教育調査委員會を設置し八月二十八日委員の任命を了した。

尼崎市の幼年工と補習教育

尼崎市内に於ける二十歳未満の幼年労働者は八月上旬の調査によれば三千三百五十三名であるが、其内工場へ勤務して居る者は千六百十三名である。同市では

此等の幼年労働者に補習教育を施す爲に調査を進めて居るが其の内、市内の實業補習學校に在籍して居る者は五百名程で月々の登校者は約二百名位であると云ふ。

工場従業員を如何に教養するか

東京府下各工場従業員の教育問題に關する東京府工場懇話委員會は八月十四日府廳内參事會室にて開かれる事となつた。之について宮本工務課長は「近時頻々として起る同盟罷業にも困つたものであるが之は全く従業者自身の教養が不足である爲め事の善惡を判斷する事なく雷同するからである。労働時間短縮の聲が喧しくなり熟練工の如きは八時間勤務を主唱する世の中であるから短縮によつて生ずる時間を利用し適當な教養訓練を施して正當な判斷力を涵養すると同時に従業者自身に於ても一層理論的科學的に作業し得る様に若い従業者其者の向上發達を計らふと云ふに外ならぬ。」云々と語つた。

信愛會の補習教育實施

有馬伯を始め佐々木、細川、廣幡、木戸の四侯、織田、岡部兩子爵等學習院出身者にて組織して居る信愛會では、先づ第一着手として小學卒業者にして直に實業に就く者に中等教育を授くる夜學校を設くる事とし、本年九月から特殊學校玉姫小學校を利用して開校する事とした。

東京織物商店員の補習教育

東京織物商組合では九月より毎夜店員の夜業を廢して其代り附近の小學校に店員を集め補習教育を施す事とした。

炭坑労働者の教育及信仰

十一月下旬福岡縣後藤寺町三井田川鑛業所所屬坑夫一萬三千四百一十六名に就き其教育の程度、信仰、新聞雜誌購讀人員數等を調査した。其結果の大略を示せば左の如くである。

▲教育程度

	男	女	計
無教育	一五五九	一三五五	二九五〇
尋常半退	二〇五〇	一〇四〇	三〇九五
尋常卒業	三七八三	一三三一	五一一四
高等半退	七〇一	一六七	八六八
高等卒業	一一九九	八四	一二八三
中等學校半退	一一〇	三	一一三
中等學校卒業	二	一	三

▲信仰ある者五千四百十四名の宗旨別

眞宗三五一一、淨土宗三六二、禪宗四九三、法華宗五五七、眞言宗三一一、天台宗一二、神道九七、天理教四五、金光教二六其他八

▲新聞雜誌を購讀せる者九百六十一名の職業別

採炭夫四四一、受負業者一五〇、支柱夫二六、棹取九六、雜夫六七、馬丁五、大工四〇、運轉手六三、職工二六、火夫一〇、撰炭夫一、其他二七、

▲新聞購讀者七百二十名の愛讀新聞種類別

九州地方發行のもの五六二、大阪地方發行のもの一〇四、東京地方發行のもの三三、其他二一

▲雜誌購讀者百四十一名の愛讀雜誌種別

労働及産業九六、中學講義錄一三、少女世界一〇、講談俱樂部八、少年世界七、婦人世界六、婦女世界六、我家四、戰友三、冒險三、圖書世界、武俠、講談雜誌、實業日本、神祕、早稻田大學講義錄、太陽、中央公論、雄辯、中學世界、ホケツト、新國民、文藝俱樂部、貯金研究、致富徑捷、利殖之友、致富の友、勸業月報、工業生活、禪學雜誌、大靈道、喫茶の友、園藝、日本中學會、正則英語、養鷄、工

業講習録、國民中學、鐵道院速成講授、航海速成、實科裁縫、主婦友、婦女界

大阪商業會議所の甲種商業

學校程度檢定

大阪全市小學校百〇六校の一ケ年卒業者約一萬一千人中十千人は給仕、丁稚家事見習等となりて自修獨學するのであるが其實力を社會的に示す可き標準が無き爲め就職等に關し甚だ不便であつた。今回大阪商業會議所では之等青年徒弟の向上發展の途を拓く爲めに商工的施設を行ふ法律上の權能に依つて四月三、四の兩日大阪高等商業校内で甲種商業卒業檢定試験を施行する事となつた。受験資格者は義務教育をへた滿十七才以上三十才以下の男女で市民たると否とを問はない。科目は簿記、算術作文、英語、商業要項にして、全科合格者には檢定證書を授け一科以上の合格者には該科目の合格證書を與へる。試験官は市立大阪甲種商業の教諭達である。夜間行ひつゝ在る實業補習教育と相待つて重要な試みの一つである。

職工長養成の學校

勞資協調の一策として澁澤大倉兩男等が職業徒弟學校の設置を計畫した。一方農商務省では我國の工業製品が從來粗製濫造の弊多く之が防止の爲め文部省と協議の結果、職工長養成の學校を建設し技術の進歩を促すと共に一面之等の人々の思想的方面の教育にも相當の考慮をする事となつた。

大阪に於ける晝間補習學校

大阪市中之島市立實業補習學校では大正九年度から晝間補習學校を開く事に決定した。從來の夜間補習學校では生徒は晝間勞働の結果疲勞を感じて居るのに授業をするのであるから、其効果に面白からぬ點があるので、同校では商工業の二分科を置き、一箇年修業として一週約十時間の授業を行ひ、又雇傭者と連絡を取りて其便利上午前の組と午後の組とを作り、獨逸のミュンヘン補習學校に模倣したものを試行すると云ふ。

東京莫大小同業組合の從業

員に補習教育

東京莫大小同業組合では日曜休業と決定して居るが九月より此日曜日に工場及び商店の従業員を一堂に集め之に莫大小に關する技術及び經濟上の事項を教授するに決定した。

東京市内少年の補習教育準備調査

東京市内では毎年小學校を卒業する者約一萬三四千名あるが、其内進んで中學校へ入學する者は僅かに二千名で、他は悉く實務に従事する状態である。之につき東京市では八年度から此等の少年の爲めに適當なる補習教育機關を設けんと欲して其調査に着手した。調査費は二千三百圓であるが、大體の方針は各小學校にては其所にある同窓會を青年團とし校長が其團長となり、各區大工場大商店の使用人には各區長が統一の任に當り、全市を通じては市長が團長となりて統一を計り、先づ補習教育を授けて時勢に遅れぬ様にし、日曜日には學術講演を開き、且圖書館を利用せしめて、思想上及科學上の知識を與ふる順序であると云ふ。

兵庫縣下實業學校卒業生就職狀況

兵庫縣下各實業學校卒業生數と採用申込と平均給料とは次の如くである。

學校名稱	卒業生數	採用申込數	平均給料
縣立商業學校一部	一一八	三七二	二五
同 二部	四五	八〇	二〇
縣立工業學校建築科	二一	五二	二一
同 機械科	四〇	二二〇	二三
同 電氣科	三四	七八	二三
縣立農學校本科	三五	三八	二七
縣立蠶業學校 男	三一	一九	二一
同 女	三七	一六	一七
神戸市立商業本科	七八	三五〇	二五
姫路市立商業本科	一五	八〇	三七
私立育英商業本科	四八	四三	二五
赤穂郡立農學校	三二	一〇	一六
佐用郡立農蠶學校	四〇	八	一六
有馬郡立農林學校	四一	一	一六
私立報德實業學校	四〇	六五	二五

實業補習學校施設概況

大正八年三月文部省調査による「實業補習教育に關する施設的情況」から各地に於ける實業學校の種類及科目修業年限等を摘出せば左の表の如くである。

地方名	學校種類	學校數	生徒數	教 科	修業年限	備 考	
北海道	工業補習學校	二		機械染色指物木型鍛冶渡金印刷製本釀造製紙製糖其他 銀行 保險 倉庫 養蜂 養蠶 養禽 蠶病 採種 物理 化學 博物	數ヶ月ノ短期ヨリ 數年ノ長期ニ渡 ル	修學ニ最モ便宜ナル季 節及時間ヲ選ブ又學科 目モ情況ニヨリ職業ニ 適切ナルモノヲ選定ス 授業期間ハ全日半日夜 間等生徒就學ノ利便ヲ 圖リ之レヲ定ム	
	商業補習學校	九五					
	農業補習學校	一五六					
東京府	工業補習學校	六	四、五〇〇	簿記 商業 園藝養蠶林業畜產農具測量土地改良等 修身及公民國語算術裁縫英語地理歷史珠算	七年——八年	間等生徒就學ノ利便ヲ 圖リ之レヲ定ム	
	商業補習學校	一三七					
	農業補習學校	九八					
京都府	工業補習學校	三		簿記 商業 園藝養蠶林業畜產農具測量土地改良等 修身及公民國語算術裁縫英語地理歷史珠算	二年	間等生徒就學ノ利便ヲ 圖リ之レヲ定ム	
	商業補習學校	二二八					
	農業補習學校	二一					
大阪府	工業補習學校	八		簿記 商業 園藝養蠶林業畜產農具測量土地改良等 修身及公民國語算術裁縫英語地理歷史珠算	二年	間等生徒就學ノ利便ヲ 圖リ之レヲ定ム	
	商業補習學校	一一六					
	農業補習學校	三〇					
神奈川縣	工業補習學校	八		簿記 商業 園藝養蠶林業畜產農具測量土地改良等 修身及公民國語算術裁縫英語地理歷史珠算	二年	間等生徒就學ノ利便ヲ 圖リ之レヲ定ム	
	商業補習學校	一一一					
	農業補習學校	三〇					
兵庫縣	工業補習學校	一		簿記 商業 園藝養蠶林業畜產農具測量土地改良等 修身及公民國語算術裁縫英語地理歷史珠算	二年	間等生徒就學ノ利便ヲ 圖リ之レヲ定ム	
	商業補習學校	一二九					
	農業補習學校	四六					

労働者の教育問題

長崎縣	新潟縣	埼玉縣	群馬縣	千葉縣	茨城縣
工業補習學校 二	工業補習學校 三	工業補習學校 六	工業補習學校 三	工業補習學校 二	工業補習學校 二
商業補習學校 一七六	商業補習學校 一〇	商業補習學校 二〇三	商業補習學校 一	商業補習學校 三	商業補習學校 二
農業補習學校 九八	農業補習學校 三一七	農業補習學校 二〇三	農業補習學校 二	農業補習學校 六〇	農業補習學校 四一六
其他 九八	其他 八六	其他 六	其他 一三三	其他 一〇	其他 二三
		修身 國語 算術 工業	修身 國語 算術 商業	修身 國語 算術 農業	修身 國語 算術 農業
		裁縫 家事 實業科 英語 體操	裁縫 家事 實業科 英語 體操	裁縫 家事 實業科 英語 體操	裁縫 家事 實業科 英語 體操
		金工木工土木染色織物釀造等水産ハ漁撈製造養殖等	金工木工土木染色織物釀造等水産ハ漁撈製造養殖等	金工木工土木染色織物釀造等水産ハ漁撈製造養殖等	金工木工土木染色織物釀造等水産ハ漁撈製造養殖等
		商事要項商品簿記經濟法規	商事要項商品簿記經濟法規	商事要項商品簿記經濟法規	商事要項商品簿記經濟法規
		土地肥料作物果樹蔬菜農具病蟲害畜産養蠶林業等	土地肥料作物果樹蔬菜農具病蟲害畜産養蠶林業等	土地肥料作物果樹蔬菜農具病蟲害畜産養蠶林業等	土地肥料作物果樹蔬菜農具病蟲害畜産養蠶林業等
		修身 公民 體操 裁縫	修身 公民 體操 裁縫	修身 公民 體操 裁縫	修身 公民 體操 裁縫
		金工木工織物染色製絲圖案製紙法規	金工木工織物染色製絲圖案製紙法規	金工木工織物染色製絲圖案製紙法規	金工木工織物染色製絲圖案製紙法規
		商業算術書信商業要項 商品 簿記 法規	商業算術書信商業要項 商品 簿記 法規	商業算術書信商業要項 商品 簿記 法規	商業算術書信商業要項 商品 簿記 法規
		土壤肥料作物耕耘農具園藝養蠶造林家畜養蜂等	土壤肥料作物耕耘農具園藝養蠶造林家畜養蜂等	土壤肥料作物耕耘農具園藝養蠶造林家畜養蜂等	土壤肥料作物耕耘農具園藝養蠶造林家畜養蜂等
		物理化學博物修身國語算術公民科	物理化學博物修身國語算術公民科	物理化學博物修身國語算術公民科	物理化學博物修身國語算術公民科
		木科ハ四ケ年	木科ハ四ケ年	木科ハ四ケ年	木科ハ四ケ年
		研究科ハ本科卒業以降ノ期間ハ別科修業期間ハ適宜定ム	研究科ハ本科卒業以降ノ期間ハ別科修業期間ハ適宜定ム	研究科ハ本科卒業以降ノ期間ハ別科修業期間ハ適宜定ム	研究科ハ本科卒業以降ノ期間ハ別科修業期間ハ適宜定ム
		研究科別科ヲ置キ採業時間ハ本科ハ一週間六時間乃至三時間研究科ハ二時間乃至六時間	研究科別科ヲ置キ採業時間ハ本科ハ一週間六時間乃至三時間研究科ハ二時間乃至六時間	研究科別科ヲ置キ採業時間ハ本科ハ一週間六時間乃至三時間研究科ハ二時間乃至六時間	研究科別科ヲ置キ採業時間ハ本科ハ一週間六時間乃至三時間研究科ハ二時間乃至六時間
		男子部豫科二箇年	男子部豫科二箇年	男子部豫科二箇年	男子部豫科二箇年
		本科四箇年研究科二箇年	本科四箇年研究科二箇年	本科四箇年研究科二箇年	本科四箇年研究科二箇年
		女子部豫科二箇年	女子部豫科二箇年	女子部豫科二箇年	女子部豫科二箇年
		本科四箇年研究科二箇年	本科四箇年研究科二箇年	本科四箇年研究科二箇年	本科四箇年研究科二箇年
		木科五箇年研究科二箇年専攻科一年二年トス	木科五箇年研究科二箇年専攻科一年二年トス	木科五箇年研究科二箇年専攻科一年二年トス	木科五箇年研究科二箇年専攻科一年二年トス
		毎週教授時數ハ土地ノ狀況ニ依リ適宜之レヲ定ム季節ヲ退リ教授スルモノハ一箇年教授日數六十日ヲ降ラザルコト	毎週教授時數ハ土地ノ狀況ニ依リ適宜之レヲ定ム季節ヲ退リ教授スルモノハ一箇年教授日數六十日ヲ降ラザルコト	毎週教授時數ハ土地ノ狀況ニ依リ適宜之レヲ定ム季節ヲ退リ教授スルモノハ一箇年教授日數六十日ヲ降ラザルコト	毎週教授時數ハ土地ノ狀況ニ依リ適宜之レヲ定ム季節ヲ退リ教授スルモノハ一箇年教授日數六十日ヲ降ラザルコト
		商業地ニ有リテハ農業ニ代フルニ商業ヲ以ツテ土地ノ狀況季節ニヨル適宜教授ス	商業地ニ有リテハ農業ニ代フルニ商業ヲ以ツテ土地ノ狀況季節ニヨル適宜教授ス	商業地ニ有リテハ農業ニ代フルニ商業ヲ以ツテ土地ノ狀況季節ニヨル適宜教授ス	商業地ニ有リテハ農業ニ代フルニ商業ヲ以ツテ土地ノ狀況季節ニヨル適宜教授ス

栃木縣

工業補習學校 一
商業補習學校 一四三
農業補習學校 一〇
其他 一〇

各々實業ニ關スル科目

修身 國語 算術 公民科 家事 裁縫

製絲 機織 染色 工業大意

商業大意 貨物

造林 畜産 養蠶 蔬菜栽培

修身 公民科 算術

機織 染色

四ケ年

二ケ年

修業年限ハ適宜之レヲ定ム
季節教授ヲ行フ
教授時間ハ晝間每週六日六時間以内夜間二時間

土地季節ニヨリ其レニ過スル如ク教授ス
實習見學ニ重キヲナス

補習科ノ外研究科ヲ施設ス

教授日授一年間六十日ヲ降ル事ヲ得ズ

三重縣

工業補習學校 一
商業補習學校 三
農業補習學校 一九〇
其他 六〇

普通科及各實業ニ關スル科目

農業大意 園藝 家畜飼養 養蠶 實地教授
修身 國語 算術 裁縫 外國 地理 歴史

尋常卒業ノ年ヨリ五ケ年一八ケ年トス

初年級ニ於テ普通科ニ重キヲ置キ昇級スルニ於テ漸次實業科ニ重キヲナス本則トス晝間夜間ノ二部ニ分ル

愛知縣

工業補習學校 一
商業補習學校 四
農業補習學校 三八九
其他 七四

各生徒ノ希望ニヨリテ選定教授ス

修身 國語 算術 裁縫

製絲 染織 家屋構造 金工 建築製圖

商事要項 商品 簿記

農業大意 蔬菜栽培 養蠶 園藝 作物肥料

地理 歴史 理科 修身 國語 算術 家事裁縫 英語

豫科二年本科二
年研究科二年以上
男子部
豫科二年 女子部
本科二年

學期ノ區分休日ハ土地ノ狀況ニヨリテ之レヲ定ム

初等科 二年
高等科男 六年
女 四年

別ニ研究科ヲ置キ
本人志望ニ依リ學校長ニ於テ研究事項ヲ指定ス

山形縣

工業補習學校 二
商業補習學校 四
農業補習學校 二二〇
其他 八六

初等科 二年
高等科男 六年
女 四年

別ニ研究科ヲ置キ
本人志望ニ依リ學校長ニ於テ研究事項ヲ指定ス

山梨縣	滋賀縣	岐阜縣	長野縣	宮城縣	福島縣
工業補習學校	工業補習學校	工業補習學校	工業補習學校	工業補習學校	工業補習學校
商業補習學校	商業補習學校	商業補習學校	商業補習學校	商業補習學校	商業補習學校
農業補習學校	農業補習學校	農業補習學校	農業補習學校	農業補習學校	農業補習學校
其他	其他	其他	其他	其他	其他
二二二	一三二	三二三	三二三	一七一	四五四
七	九	七	二	三	七

労働者の教育問題

金工 木工 土木 織物 染色 製絲 製紙等	各學校ニヨリ之レニ適應スル科目ヲ撰定ス	專門科ハ土地ノ情況ニヨリ之レヲ選定ス	女子部 裁縫機織染色家事經濟育兒衛生	各々實業ニ關スルモノ	修身 國語 算術 裁縫 家事	修身 國語 算術 裁縫 公民
商事經營 商品 商取引 法制經濟 簿記等		普通科トシテ教授スルモノハ修身國語算術地理歴史理科產	機織 染色			
農業大意作物果樹蔬菜土壤肥料農具畜產養蠶林業法規		業組合法規				
修身 國語 算術 公民 裁縫 家事 體操等						

豫科二年本科六年	男子部 五年	學科目ニヨリ修業年限一定セズ	必要ニ應シ短期講習會ヲ開設ス	豫科 本科研究科ノ三ツニ別ル	農業補習ニ最モ重キヲナス	土地ノ狀況ニヨリ生徒ニ貸與スベキ教科書ヲ備フ
豫科二年本科六年	女子部 四年	修業期間制限ナシ	授業料ハナルベク徴收セザル事	實業科ノ教授時數ハ總教授時數ノ二分ノ一以上トス		
豫科二年本科六年						
教授日數ハ季節及ヒ土地ノ情況ニヨリ適宜ニテ定ム而カシ一年間ニ於テ教授日數八十チ降ラザル事	男子ハ普通夜間授業トス入學者ノ年齢ハ十二歳以上トス					

岩手縣

工業補習學校 一
商業補習學校 一
農業補習學校 七七
其他 四

木型 渡金 製紙 蹄鐵 髹漆蒔繪 鍛冶 染色
商事要項 銀行 保險 倉庫
養蠶 養禽 酪農 養鯉等
博物 國語 算術 編物 裁縫

修業年限ハ科目ニヨリ一定セス
教科目ハ餘リ多種エ渡ラサルヲ要ス教授スル時期ハ通年ノモノト季節教授ノモノト二種

青森縣

工業補習學校 三
商業補習學校 一
農業補習學校 二〇
其他 二七

學科目ハ任意之ヲ選定スル事ヲ得ヘシ
修身 國語 算術 公民科 裁縫家事

尋常卒業者二年一
三年高等科卒業者
一年一二年尙丁年
ニ至ル迄ノラエル
機會ヲ利用シテ補
習教育ヲ施ス
土地ノ狀況生徒ノ希望ニヨリ一分科又ハ數分科ヲ教授ス女子ハ夜間授業ヲ行ハサル事

秋田縣

工業補習學校 一
商業補習學校 一五八
農業補習學校 二八
其他 二八

土地ノ狀況又生徒各自ノ要求ニ適應セル特權事項ヲ選ヒテ之レヲ教授ス
國語 算術 理科 地理 歴史 裁縫 家事

各實業ニ對スル必要ナル事項ニ付テ教授ス
國語 算術 理科 修身 地理 歴史 法制 經濟

福井縣

工業補習學校 一
商業補習學校 三
農業補習學校 一八一
其他 六四

國語 算術 理科 修身 地理 歴史 法制 經濟

六ヶ年
修業年限四ヶ年高
等小學卒業者ハ二
ヶ年但シ卒業ニシ
テ滿二十歳ニ達ス
ル迄研究生トシテ
修學セシム事ヲ得

石川縣

工業補習學校 二
商業補習學校 六
農業補習學校 二五一
其他 一六

修身 國語 算術 理科
金工木工土木織物染色製絲
商業經營商品商取引簿記等
作物果樹蔬菜土壤肥料農具畜産養蠶林業經濟法規病蟲害漁撈製造養殖漁船運用博物等

豫科二箇年
本科二箇年
專修科二箇年
實業科實地見學ニ重キヲ置キ
一箇年ヲ通シテ教授ス
ルモノトス修業年限ヲ三箇年迄ニ短縮スル事ヲ得

富山縣

工業補習學校 五
商業補習學校 四八
農業補習學校 一〇
其他 一〇

國語 算術 理科 修身 地理 歴史 法制 經濟

六ヶ年
修業年限四ヶ年高
等小學卒業者ハ二
ヶ年但シ卒業ニシ
テ滿二十歳ニ達ス
ル迄研究生トシテ
修學セシム事ヲ得

和歌山縣	山口縣	廣島縣	岡山縣	島根縣	鳥取縣
工業補習學校	工業補習學校	工業補習學校	工業補習學校	工業補習學校	工業補習學校
商業補習學校	商業補習學校	商業補習學校	商業補習學校	商業補習學校	商業補習學校
農業補習學校	農業補習學校	農業補習學校	農業補習學校	農業補習學校	農業補習學校
其他	其他	其他	其他	其他	其他
二一九	一二〇	三四五	一七六	一〇三	一八〇
二二	一	三	一	二	二
三二八	一二六	四七	一八	一七九	三三
一六	一六	五	一	一	一

勞働者の教育問題

製絲機械染色漆器冶金 簿記 土壤肥料作物耕耘病蟲害造林 修身 國語 算術	土地ノ狀況ニヨリ適宜之レヲ選定ス 修身 國語 算術	修身 國語 算術 理科 英語 地理 歷史 圖畫 裁縫 家事	作物養蠶畜産農業經濟土壤肥料農具 修身 國語 算術 裁縫 家事 育兒 染色機械冶金 法制經濟商業大意 養蠶畜産農業大意 地理 歷史 理科 修身 國語 算術 漢文 ローマ字	商工業ニ關スル諸事項 土壤肥料作物耕耘農具病蟲害養蠶畜産造林園藝 物理 化學 博物 修身 國語 算術 家事 裁縫	二箇年 季節教授ニアリ テハ二年—三年 常時教授ニアリ テハ一年—二年 生徒家庭ノ事情ヲ調ヘ 巡回シテ實地指導ヲナス	農業補習ニ重キヲ置キ 通常教科目ハ國語算術 修身農業ノ四科目トス 工商ハ土地狀況ニヨリ 之ヲ課ス
豫科二箇年	乙組 三箇年	本科四年研究科 不定本科四年研 究科不定本科四 年研究科四箇年 本科三年研究科 不定	甲組 三箇年	尋常卒業後丁年 ニ達スル迄義務 的ニ修業セシム	巡回教授ヲ行フ試験場 ヲ利用シ實習試験ヲナ ス等時勢ニ適切ナル指 導ヲナスヘシ	
甲組 三箇年	乙組ハ毎年十二月ヨリ 翌年三月三十一日迄夜 間開校	本科授業時數一〇〇時 以上 研究科—五〇時以上 女子本科一五〇研究科 一〇〇以上	乙組ハ通年開校每週火 金兩日トス	見學實習ニ重キヲ置キ 實地教授ヲ行フ品評會 等ヲ開ク事アルヘシ		

徳島縣

工業補習學校 六
商業補習學校 一
農業補習學校 一
其 他 三

各實業ニ關スル適當ナル事項ヲ教授ス
修身 國語 算術 裁縫 家事

香川縣

工業補習學校 六
商業補習學校 一
農業補習學校 一
其 他 二

氣象蔬菜果樹畜産養蠶農産製造農業經濟農具
國語 算術 修身 裁縫 家事 各實業大意

愛媛縣

工業補習學校 一
商業補習學校 五
農業補習學校 二
其 他 七

農業大意農業簿記
修身 國語 算術 公民科 裁縫 家事

高知縣

工業補習學校 四
商業補習學校 一
農業補習學校 一
其 他 八

該當事項ナシ

福岡縣

工業補習學校 一
商業補習學校 三
農業補習學校 二
其 他 四

各々必要ナル科目ニ付キ選定教授ス

大分縣

工業補習學校 一
商業補習學校 二
農業補習學校 二
其 他 五

修身 國語 算術 理科 地理 歴史

豫科二ケ年 本科二ケ年 研究科四ケ年	休日ヲ利用シ特殊ノ講 話講習實習等ヲナス
豫科二ケ年 本科四ケ年 研究科二ケ年	教材ハ土地近況ヨリ生 徒實際生活ニ適切ナル モノヲ選擇スヘシ
尋常卒業 四ケ年 高等小學 二ケ年	商工水産補習學校修業 年限課程教授時數ハ農 業補習學校ニ大差ナシ
修業年限ニハ一 定ノ制限ナシ	各職業ニ要スル智識技 能ヲ授ケルト同時ニ普 通教授ノ補習ヲナス目 的トス學科目ハ生徒ノ 任意選擇志望ニヨリテ 選ブ教授季節モ同上

佐賀縣	熊本縣	宮崎縣	鹿児島縣	沖縄縣
工業補習學校	工業補習學校	工業補習學校	工業補習學校	工業補習學校
商業補習學校	商業補習學校	商業補習學校	商業補習學校	商業補習學校
農業補習學校	農業補習學校	農業補習學校	農業補習學校	農業補習學校
其他	其他	其他	其他	其他
一	一	一	一	一
四八	五	六	二七	六二
一六	一七三	八八	三四	三
機織染色 綵漆 時時指物 木型 鍛冶 渡金 印刷製本	銀行保險倉庫商品	機織染色	木工金工 染工 工具材料製作 圖畫原料 配色	商業大意
養蠶養蜂畜産園藝	博物 化學 地理 歴史 國語 算術 修身	商業大意簿記法制經濟大要	商業大意	農業大意
農織染色	商業要項初步商品簿記	農業大意 蠶業大意 林業大意	國語 算術 修身 實業 (農業 蠶業 林業)	國語 算術 修身 實業 (農業 蠶業 林業)
農業大意 造林畜産果樹園藝 蔬菜養蠶	修身 公民 國語 算術 裁縫 家事	修身 國語 算術 水産業大意 鑛業大意		
木工工具 木工材料 配色 精練漂白染色 織物原料				
豫科二年	本科三年	修業期間ハ各三		
研究科二年	如シ授ハ業男子ハ夜間	授業料ハ徴收セズ		
女子ハ夜間授業ヲ行ハ	トシ女子ハ晝間ニ之レ			
ズ修業期間ハ土地ノ狀	チ行フ			
況ニヨリ一定セズ				
				修業年限不明